

# 第3章 千歳市の現況

## 3-1 千歳市の特性

### (1) 位置・地勢

千歳市は、道央圏・石狩平野の南端に位置しており、札幌市・苫小牧市・恵庭市など4市4町に隣接しています。市域は東西に約57km、南北に約30kmとなっており、西高東低の地形を成しています。

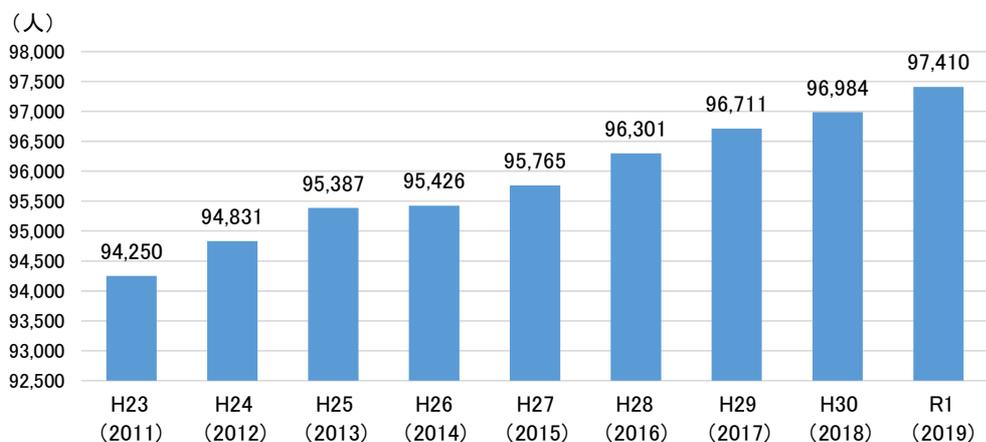


### (2) 人口動向

千歳市は、道内でも数少ない人口が増加しているまちです。

平成27年度（2015年度）から取り組んでいる「みんなで97,000プロジェクト」は、目標人口として掲げた97,000人を予定より2年早い平成30年（2018年）に達成しており、現在は10万人都市を目指し、企業の誘致による雇用の創出や子どもを産み育てやすい環境づくりなどを進め、出生率の向上や定住に取り組んでいます。

千歳市の人口の推移（住民基本台帳）



(各年10月1日現在)

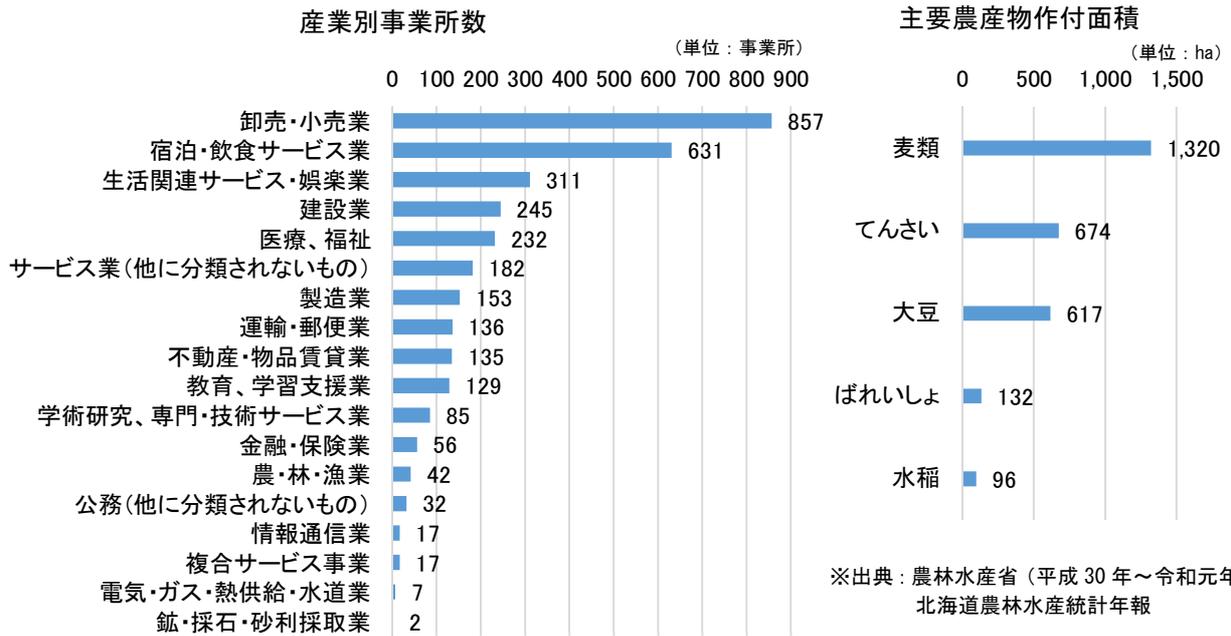
### (3) 産業

市内には、11 か所の工業団地があり、企業の立地件数は 260 社を超えています。優れた交通ネットワークや産業インフラが充実していることから、道内有数の工業適地として、更なる企業誘致を進めています。また、大規模な工場が多く立地しており、製造業の事業所数と従業者数の構成比（括弧内＝北海道内構成比）を見ると、それぞれ 4.7%・14.3%（4.8%・8.2%）となっています。

一次産業は、市域東部を中心に農業が営まれ、てん菜や小麦、馬鈴薯等が生産されているほか、畜産も盛んに行われています。

また、千歳市は観光地となっている「支笏湖」のほか、「新千歳空港」が所在していることから観光業や運輸業の適地であり、産業別事業所と従業員数の構成比（括弧内＝北海道内構成比）を見ると、それぞれ「宿泊・飲食サービス業」が 19.3%・9.3%（13.9%・8.9%）で「運輸・郵便業」が 4.2%・9.5%（2.7%・5.8%）であり、北海道内構成比を上回っています。

加えて、平成 31 年（2019 年）4 月から公立法人化された「公立千歳科学技術大学」では、運営方針の一つとして「地域貢献」を掲げており、人材育成や専門性を生かした産業の活性化が期待されています。



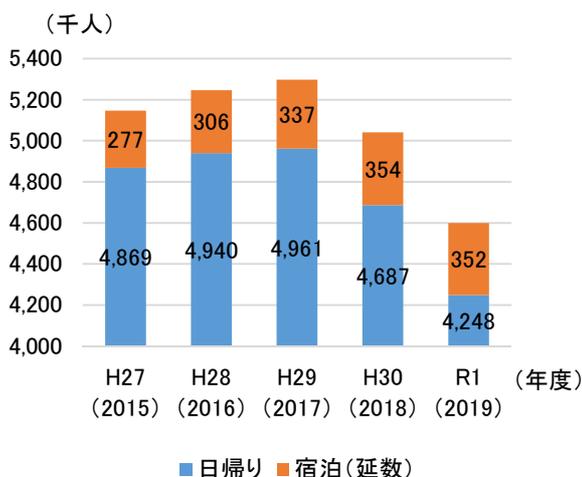
※出典：要覧ちとせ（令和 2 年度版）

(4) 観光

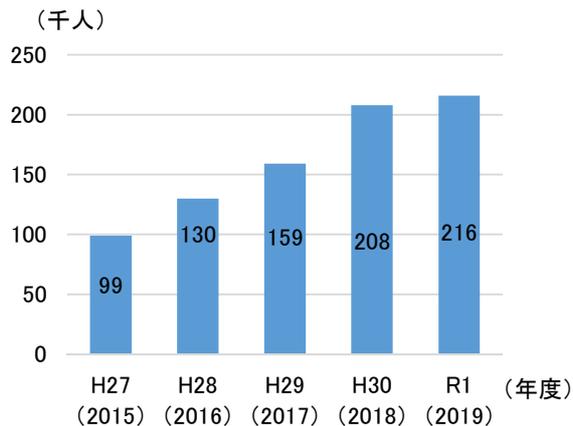
千歳市の観光入込客数は、平成30年(2018年)の北海道胆振東部地震や令和2年(2020年)の新型コロナウイルス感染症の影響から減少しましたが、「新千歳空港」の民間運営委託により外国人観光客の増加が期待されています。

空港の民間運営委託は、観光客にPRする重要な機会であり、支笏洞爺国立公園支笏湖地域などの雄大な自然環境をはじめ、四季折々の変化を感じることができる千歳市の魅力を広く伝えるために、空港運営会社と連携して情報発信に努めています。

千歳市観光入込客数



千歳市訪日外国人客数



※出典：千歳市観光課

(5) 子育て

「子育てするなら、千歳市」をキャッチフレーズに、妊娠・出産から子育てまでの切れ目のない支援を実施し、ちとせ版ネウボラによる子育て支援や、平成29年度(2017年度)には道内で2番目となる自治体によるイクボス宣言(仕事と子育てや介護、地域活動が調和する働き方改革)を行うなど、子育て世代に選ばれるまちとして働きながら安心して子育てができる環境づくりを進めています。



※出典：子育てするなら、千歳市  
ロゴマーク

## (6) 教育・人材育成

市内には小学校が 17 校、中学校が 9 校あり、約 8,000 人の児童生徒が伸び伸びと学んでいます。

教育委員会では、ICT 機器の整備や学習支援員、特別支援教育支援員の配置等による学習環境の整備を行っており、子どもたちの「確かな学力」、「豊かな人間性」、「健康や体力」を育む教育活動に取り組んでいます。

また、小中学校では、「地域とともにある学校」を目指し、地域への積極的な情報発信に努めるとともに、コミュニティ・スクール（学校運営協議会）<sup>\*</sup> の活動を推進しています。

## (7) 地域コミュニティ・暮らし

平成 30 年（2018 年）9 月に発生した北海道胆振東部地震では、千歳市において震度 5 強を観測し、全道的なブラックアウト（大規模停電）を初めて経験したことから、市民の防災意識が高まっています。

さらに、高齢者や子どもたちの見守りなど、支え合うことのできる地域づくりのため、町内会を中心とした活動に取り組んでいます。

一方、毎年 6,000 人程度の人口の転出入がある千歳市では、人と人のつながりが希薄化しやすいため、町内会を中心に若い世代と連携した持続可能な地域コミュニティの形成を進めています。



千歳市町内会連合会防災訓練の様子  
※出典：千歳市町内会連合会

<sup>\*</sup>コミュニティ・スクール：学校と保護者や地域住民がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みのこと。

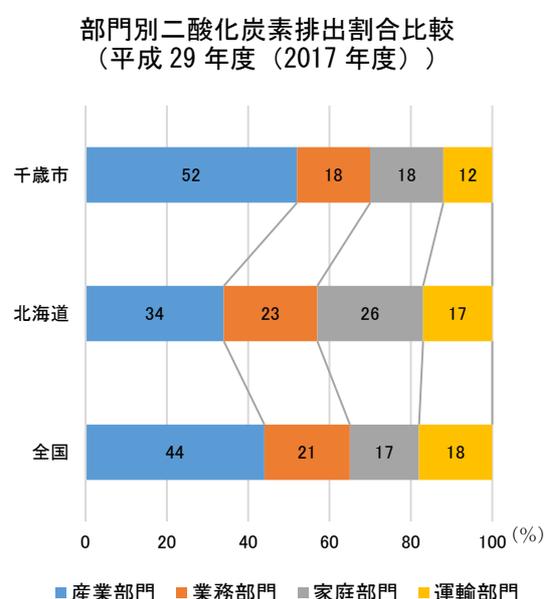
## 3-2 千歳市の環境の現状と市民意識

### (1) 地球温暖化防止

#### ①千歳市の地球温暖化に関する現状

##### 【二酸化炭素排出量】

千歳市の平成 29 年度（2017 年度）の二酸化炭素排出量は、約 146 万トンとなっており、パリ協定において日本が比較の基準とする平成 25 年度（2013 年度）の値である 135 万トンより 8.1%上回っています。また、部門別の二酸化炭素排出割合では、国や北海道と比較して、産業部門の割合が高くなっています。これは、千歳市の特徴である、企業立地数が多いことが要因となっています。



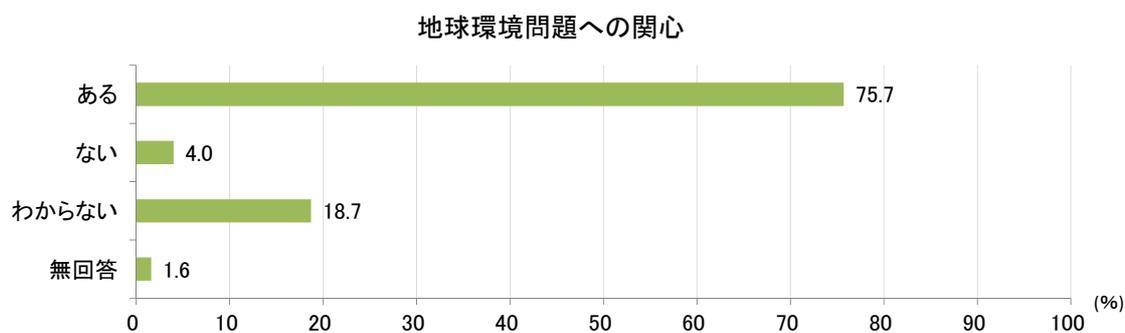
※出典：環境省（部門別 CO<sub>2</sub> 排出量の現況推計）  
公表結果の遡及修正（令和 2 年（2020 年）3 月）  
公開データを基に作成

産業部門：第一次産業及び第二次産業に属する法人ないし個人の産業活動により、工場・事業所で消費されたエネルギー  
業務部門：家計が住宅内で消費したエネルギー消費と第三次産業(水道・廃棄物・通信・商業・金融・不動産・サービス業・公務など)に属する企業・個人が、事業所の内部で消費したエネルギー  
家庭部門：家計が住宅内で消費したエネルギー  
運輸部門：企業・家計が住宅・工場・事業所の外部で人・物の輸送・運搬に消費したエネルギー

## 【地球温暖化に関する市民意識】（アンケート調査）

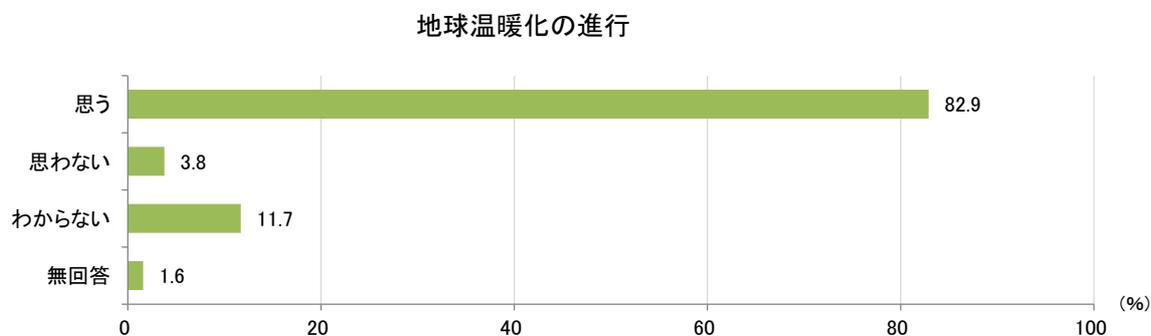
### ○地球環境問題への関心

地球温暖化やオゾン層の破壊など地球規模の環境問題に対する関心の有無について、地球環境問題への関心が「ある」との回答は、75.7%（前回調査 75.0%）で前回調査より 0.7 ポイント増加し、「ない」との回答は 4.0%（前回調査 4.7%）で 0.7 ポイント減少しています。



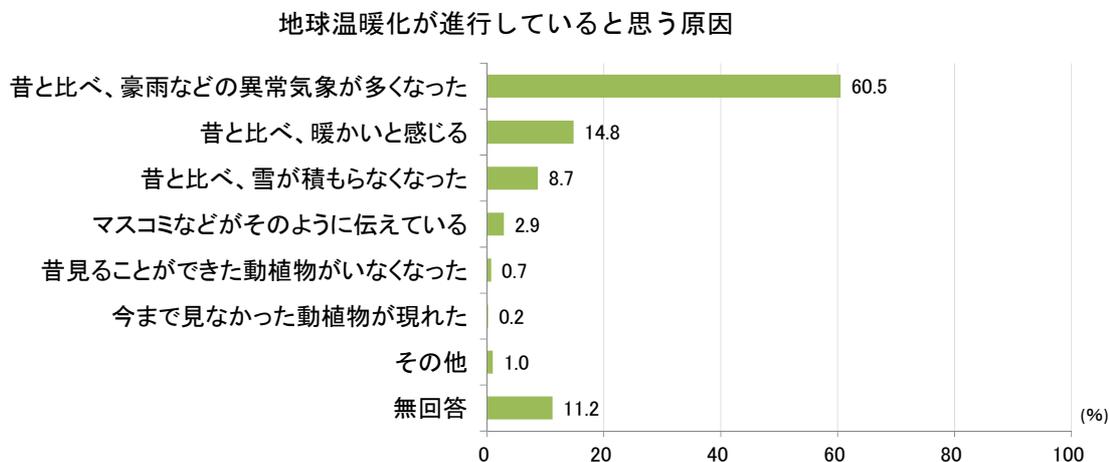
### ○地球温暖化に対する認識

地球温暖化の進行に対する認識では、進行していると「思う」との回答が 82.9%（前回調査 86.4%）であり、前回調査と同様に高い割合となっています。また、「思わない」との回答が 3.8%（前回調査 3.0%）となっています。



## ○地球温暖化の原因に対する認識

前の設問に対して、地球温暖化が進行していると思う原因としては、「昔と比べ、豪雨などの異常気象が多くなった」が60.5%で、次に「昔と比べ、暖かいと感じる」が14.8%となっています。



## ②現状の主な取組

- ・ 地球規模の課題である低炭素社会の実現に向けて「Fun to share」<sup>※1</sup>や「COOL CHOICE」<sup>※2</sup>等の普及啓発に取り組んでいます。
- ・ 「千歳市役所環境マネジメントシステム（通称：エコアクション）」<sup>※3</sup>により、千歳市が管理する施設等におけるエネルギー使用量削減の取組を進めています。
- ・ 「市民・事業者・市（行政）」が一体となった温室効果ガス削減の取組を進め、低炭素型の都市や暮らしの確立を目指しています。

※1Fun to share：地球温暖化対策の最新の知恵をみんなで楽しくシェアしながら低炭素社会をつくっていくために、環境省が掲げている合言葉のこと。

※2COOL CHOICE：環境省が令和12年度（2030年度）に温室効果ガスの排出量を平成25年度（2013年度）比で26%削減するという目標達成のため、脱炭素社会型の製品への買換え・サービスの利用・ライフスタイルの選択など、地球温暖化対策に資する「賢い選択」をしていく取組のこと。

※3エコアクション：千歳市の環境に関する諸施策を推進するため、「計画（Plan）」「実施（Do）」「点検（Check）」及び「見直し（Action）」のステップを繰り返し実施し成果を高める仕組みのこと。

## (2) 環境保全

### ①千歳市の環境保全に関する現状

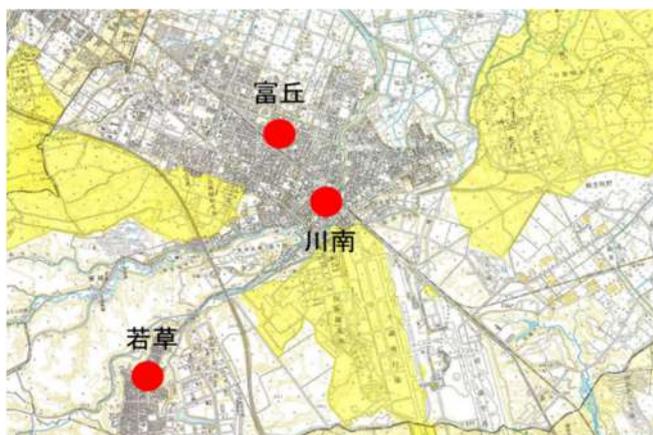
#### 【大気環境】

千歳市の大気環境は、豊かな森林や農地がある一方で、工業団地や幹線道路、空港や防衛施設などが所在することから、継続的な監視と公害の未然防止が必要となっています。

千歳市では、大気の状態を監視するため、2か所の一般環境大気測定局と1か所の自動車排出ガス測定局を設置しています。大気環境は令和元年度の測定結果において、二酸化硫黄<sup>※1</sup>、二酸化窒素（窒素酸化物<sup>※2</sup>）、浮遊粒子状物質<sup>※3</sup>ともに全測定局で環境基準を達成しています。

また、平成24年度（2012年度）からは「PM2.5<sup>※4</sup>」の測定を行っており、令和元年度（2019年度）において、環境基準を達成しています。

大気汚染測定局の位置



令和元年度（2019年度）大気汚染測定結果（年間月平均値）

区 分	一般環境大気測定局		自動車排出ガス測定局
	富丘測定局	若草測定局	川南測定局
二酸化硫黄 (ppm)	0.003	0.003	—
二酸化窒素 (ppm)	0.009	0.005	0.013
浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	0.009	0.009	0.010

令和元年度（2019年度）PM2.5測定結果（年間月平均値）

区 分	川南測定局
PM2.5 (μg/m <sup>3</sup> )	11.1

※1 二酸化硫黄：石油や石炭など硫黄分が含まれる化学燃料を燃焼させることにより発生する気体のこと。高濃度の汚染により呼吸器を刺激し、せき、ぜんそく、気管支炎などの障害を引き起こすおそれがある。また、酸性雨の原因物質となっている。

※2 窒素酸化物：一酸化窒素と二酸化窒素などの総称のことで、工場の煙や自動車の排気ガスなどに含まれる。また、酸性雨などの原因物質となっている。

※3 浮遊粒子状物質：大気中に浮遊している粒子状物質で、粒径10μm（100分の1mm）以下のものをいい、発生源は工場のばい煙、自動車の排気ガスなどの人の活動に伴うもののほか、自然界由来（火山、森林火災など）のものがある。粒径により呼吸器系の各部位へ定着し、高濃度では人の健康に影響を及ぼすおそれがある。

※4 PM2.5：詳細は62ページのコラムを参照。

大気汚染に係る環境基準

物質	環境上の条件（設定年月日等）
二酸化硫黄	1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。（昭和48年環境庁告示第35号）
二酸化窒素	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。（昭和53年環境庁告示第38号）
浮遊粒子状物質	1時間値の1日平均値が0.10mg/m <sup>3</sup> 以下であり、かつ、1時間値が0.2mg/m <sup>3</sup> 以下であること。（昭和48年環境庁告示第39号）
PM2.5	1年平均値が15μg/m <sup>3</sup> 以下であり、かつ、1日平均値が35μg/m <sup>3</sup> 以下であること。（平成21年環境庁告示第33号）

【水質環境】

千歳市の水環境は良好な水質に恵まれています。

この水環境を保全するため、千歳川や美々川の河川、支笏湖、地下水の特定の地点で水質調査を実施しています。

支笏湖は、環境省の湖沼水質測定結果においてCOD<sup>\*1</sup>が低いことから水質が良いと評価されています。それに加え、千歳川は令和元年度（2019年度）の水質測定で、BOD<sup>\*2</sup>の値が水1Lにつき1mg以下で水道としても簡易な浄水操作で飲用できる水質となっています。

千歳市の水道水は、環境省の「名水百選<sup>\*3</sup>」に選定された「ナイベツ川湧水」を主水源とする蘭越浄水場から給水しています。また、漁川ダムや千歳川上流の水源も確保し、上水道普及率は99.9%となっています。下水道については、市街地部分を中心とした公共下水道と下水道処理区域外の個別排水処理施設整備事業（合併処理浄化槽）により水洗化を進めています。令和元年度（2019年度）末の汚水衛生処理率<sup>\*4</sup>は99.4%と高い水準となっています。

CODが低い湖沼（全国順位）（単位：mg/L）

順位	類型指定水域	都道府県	年間平均値
1	田沢湖	秋田県	0.5
2	支笏湖	北海道	0.6
〃	夏瀬ダム	秋田県	0.6
〃	鎧畑ダム	秋田県	0.6
5	倶多楽湖	北海道	0.9

出典：平成30年度環境省公共用水域水質測定結果参考資料

\*<sup>1</sup>COD：水中に含まれる有機物などの物質を、分解する時に必要な酸素の量を酸化剤の消費量で換算して示す指標のこと。この値が小さいほど水中の有機物が少なく、水質が良いと評価される。

\*<sup>2</sup>BOD：水中にすむ微生物が、エネルギー源として汚れを食べるときに必要な酸素の量を示したものの量が少ないほど、水質が良い。

\*<sup>3</sup>名水百選：環境省が選定した全国各地の「名水」とされる100か所の湧水・河川（用水）・地下水のこと。

\*<sup>4</sup>汚水衛生処理率（%）：単独浄化槽を除く現在水洗便所設置済人口／行政区内人口

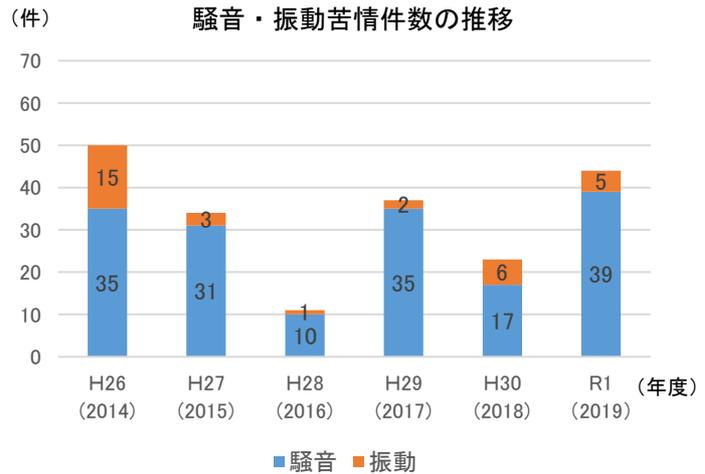
【騒音・振動】

千歳市では、空港や防衛施設での離着陸や航行に伴う航空機騒音や国道沿いの自動車騒音があります。良好な生活環境を保全するため、これらに対する測定を常時または定期的に実施しています。

航空機騒音は8か所の測定局で実施しており、年度平均の数値が環境基準を超えている

測定局が数か所あります。令和元年度(2019年度)自動車騒音の調査における環境基準達成率は、道道千歳インター線で96.9%、市道東大通で99.9%、道道泉沢新千歳空港線及び市道真町泉沢大通で100%となっています。

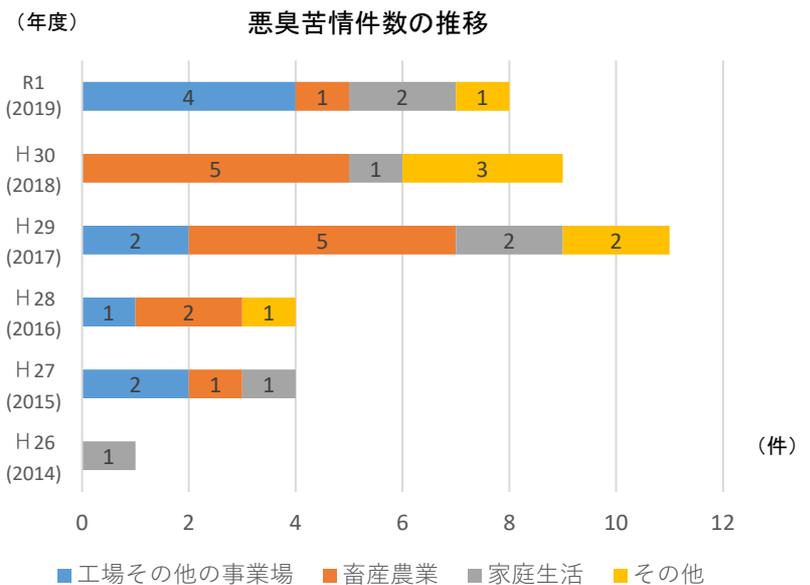
また、令和元年度(2019年度)の騒音による苦情は39件で、振動については5件となっています。



【悪臭・地盤沈下】

千歳市の悪臭苦情件数は令和元年度(2019年度)には8件で、半数が工場その他の事業所に関する苦情となっています。

なお、千歳市における地盤沈下の被害は現在のところ報告されていません。



【土壌汚染】

土壌汚染対策法等に基づく知事の指定\*を受けた土地は現在のところありません。

\*土壌汚染対策法等に基づく知事の指定：北海道知事が土壌汚染により健康被害のおそれがあると認める土地に対して状況調査の実施命令を発出し、その調査において土壌汚染が判明した場合、健康被害のおそれの有無に応じて、要措置区域又は形質変更時要届出区域の指定をすること。

### 【有害化学物質】

農薬散布やごみの野焼などで発生するダイオキシン類<sup>※1</sup>や内分泌かく乱化学物質（環境ホルモン）<sup>※2</sup>は、人への健康被害や野生動植物への影響が懸念されています。

千歳市では、ダイオキシン類の汚染状況について、大気と河川の水質で毎年調査を行っており、環境基準を満たしています。

令和元年度（2019年度）ダイオキシン類分析測定結果

種別及び測定箇所	単位	測定結果	基準値
大気（東雲町3丁目）	pg - TEQ/m <sup>3</sup>	0.0082	0.6以下
河川水質（釜加）	pg - TEQ/L	0.062	1以下

### 【公園・緑地】

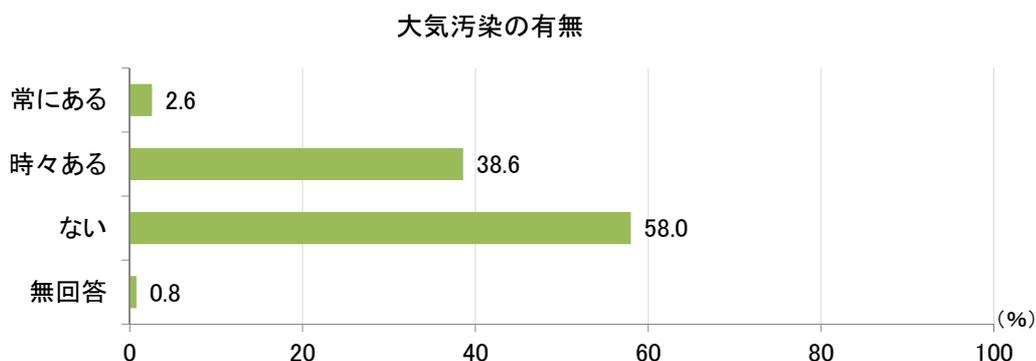
千歳市では、支笏湖周辺の森林に限らず、市街地においても、青葉公園（総合公園）や青空公園（運動公園）などの都市公園、ママチ川や長都川などの都市緑地があります。

平成31年（2019年）4月1日現在では、209か所421.58haあり、市民一人当たりの公園面積は、43.91m<sup>2</sup>で、国や北海道の平均を上回っています。

### 【環境保全に関する市民意識】（アンケート調査結果）

#### ○大気汚染に関する市民意識

大気汚染（空気の汚れ）の有無について、「常にある」と「時々ある」を合わせた回答は41.2%（前回調査17.1%）となっています。

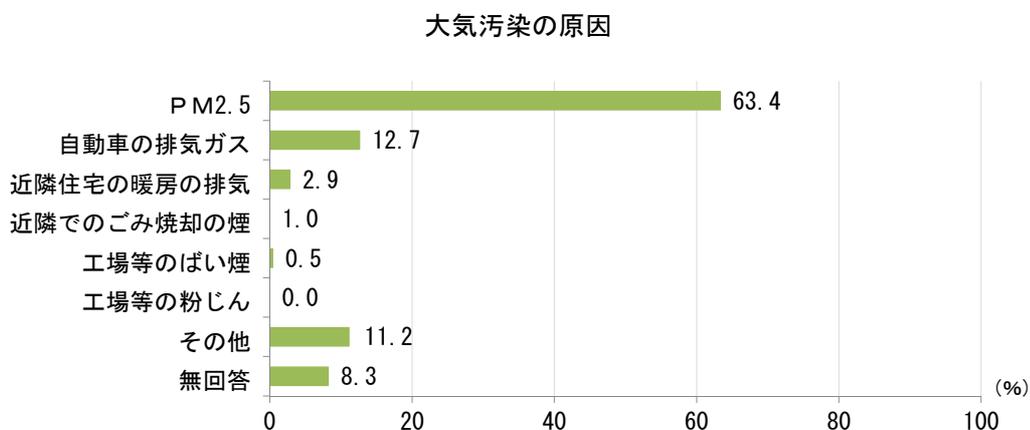


※1 **ダイオキシン類**：有機塩素化合物の一種であるポリ塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシン（PCDD）のことで、生物に対して非常に強い毒性をもつ。ダイオキシン類対策特別措置法では、PCDDによく似た性質をもつ、ポリ塩化ジベンゾフラン（PCDF）、コプラナーポリ塩化ビフェニル（Co-PCB）をあわせたものをダイオキシン類として規制している。

※2 **内分泌かく乱化学物質（環境ホルモン）**：人や動物の体内に取り込まれた場合、内分泌作用をかく乱する可能性が指摘される化学物質を指す。現時点では、環境汚染や人体への健康影響などについて科学的に未解明な点が多く残されていることから国では研究を進めている。

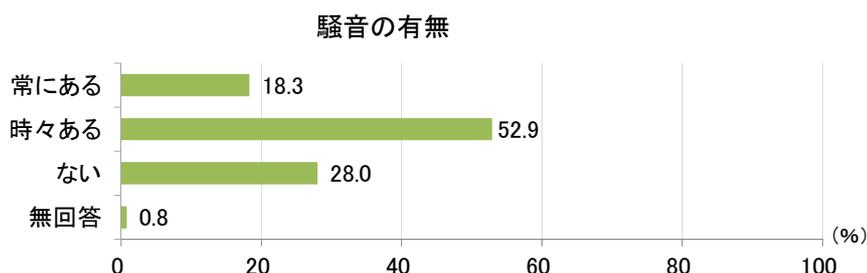
### ○大気汚染の原因

前の設問での大気汚染の原因について、「PM2.5」が63.4%で最も高くなっています。次に「自動車の排気ガス」が12.7%となっています。



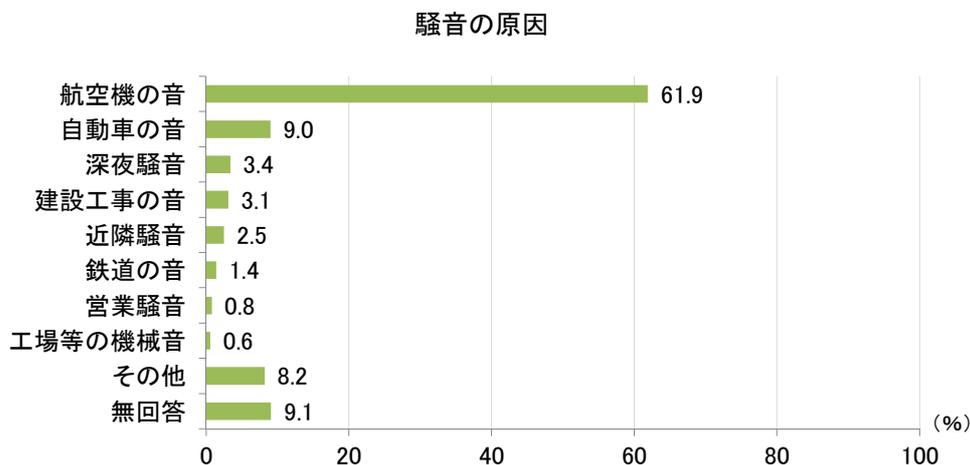
### ○騒音に関する市民意識

騒音（うるさい音）の有無について、「常にある」と「時々ある」を合わせた回答は71.2%となり、前回調査結果78.8%から7.6ポイント減少しています。



### ○騒音の原因

前の設問での騒音の原因について、「航空機の音」が61.9%で最も高くなっており、前回調査59.0%から2.9ポイント増加しています。また、「近隣騒音」が2.5%（前回調査9.4%）、「深夜騒音」が3.4%（前回調査9.2%）とそれぞれ減少しています。「その他」の回答として、主に大砲の音や戦車の騒音などがあります。

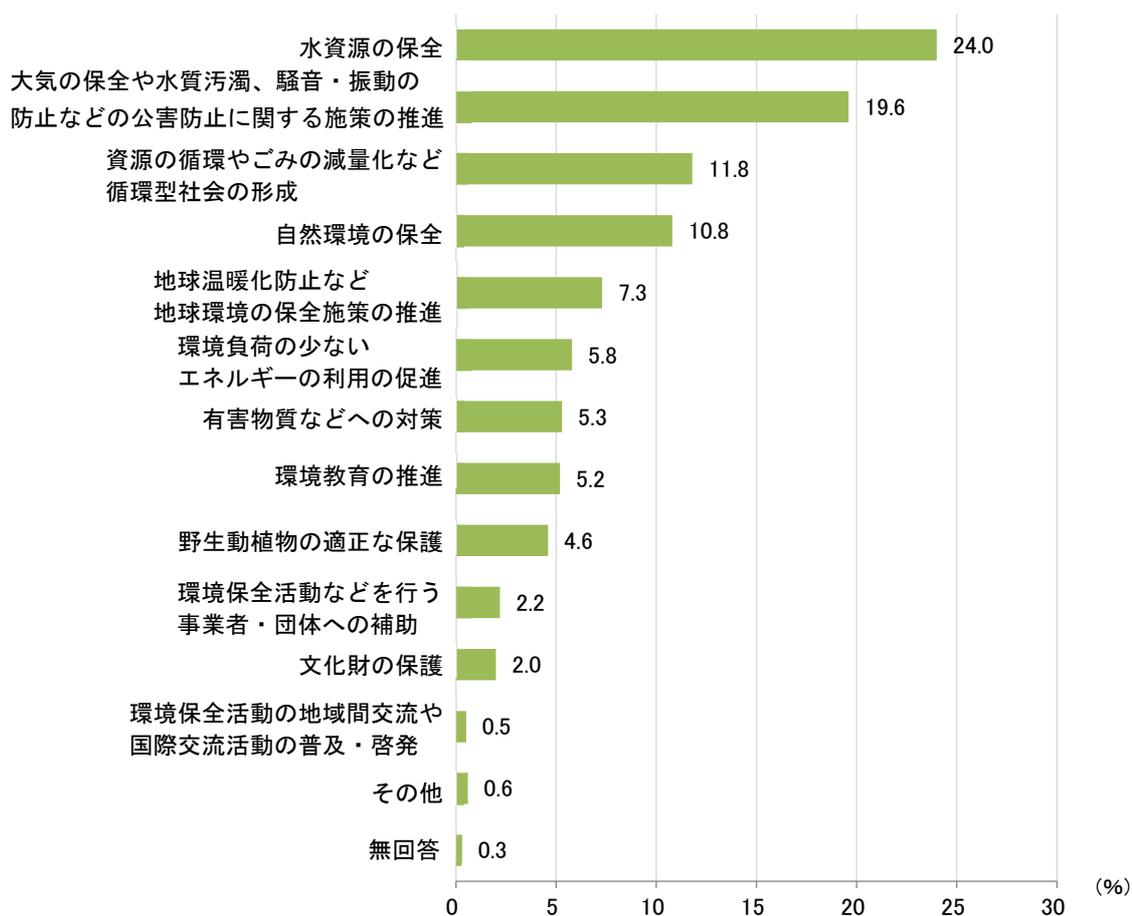


### ○取り組むべき環境保全施策

重点的に取り組むべき環境保全施策を3つ以内で選択する質問に対して、回答割合が高いものは、「水資源の保全」が24.0%、「大気の大気や水質汚濁、騒音、振動の防止などの公害防止に関する施策の推進」が19.6%となっています。

また、「その他」の回答として、不法投棄対策などがありました。

重点的に取り組むべき環境保全施策



### ②現状の主な取組

- ・ 大気汚染や水質汚濁などの公害から市民の健康を守るため、監視の継続、指導を行っており、良好な生活環境は守られています。
- ・ 航空機騒音については、防音工事のほか、細やかな情報発信などを通じて市民の理解を求めています。

### (3) 自然共生

#### ①千歳市の自然共生に関する現状

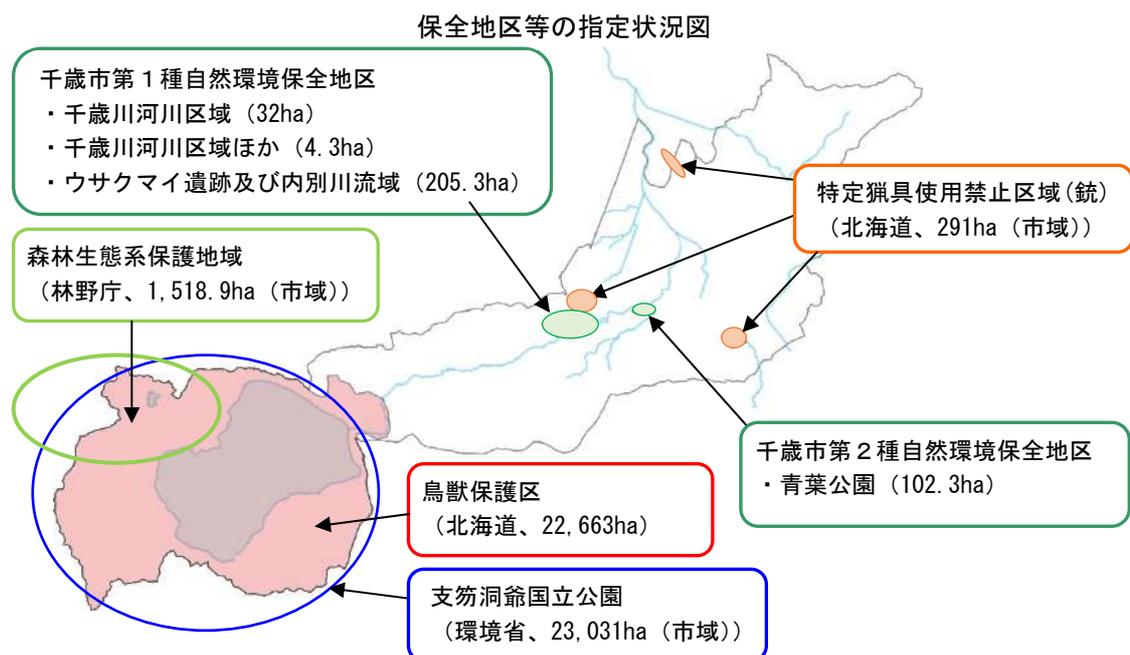
##### 【千歳市の自然資源】

千歳市には、全国でも有数の水質を誇る「支笏湖」や、清流「千歳川」、原始的な自然を残した国有林などがあり、北海道の雄大な自然を身近に感じることができ、特に支笏湖周辺は樽前山や恵庭岳などの山々が連なり、自然の宝庫となっています。また、市街地では千歳川をはじめママチ川、勇舞川などの水辺空間や豊かな森林を有する青葉公園などが、自然と身近にふれあうことができる市民の憩いの場となっており、多種多様な動植物が生息しています。

##### 【自然環境の保全地区等の指定状況】

市域の54%が森林地域であり、そのほとんどが原始的な自然を残した国有林などであることから、自然環境を守るため、国や北海道において多くの保全地区が指定されています。支笏湖周辺は、自然公園法に基づく「支笏洞爺国立公園」に指定され、動植物の採取や車両・動力船の乗り入れが規制されています。そのほかの保全地区として、原始的な天然林を保存することにより、自然環境維持や野生動植物保護を目的とする「森林生態系保護地域」が支笏湖、オコタンペ湖周辺に設定されているほか、鳥獣保護区、特定猟具使用禁止区域（銃）が指定されています。

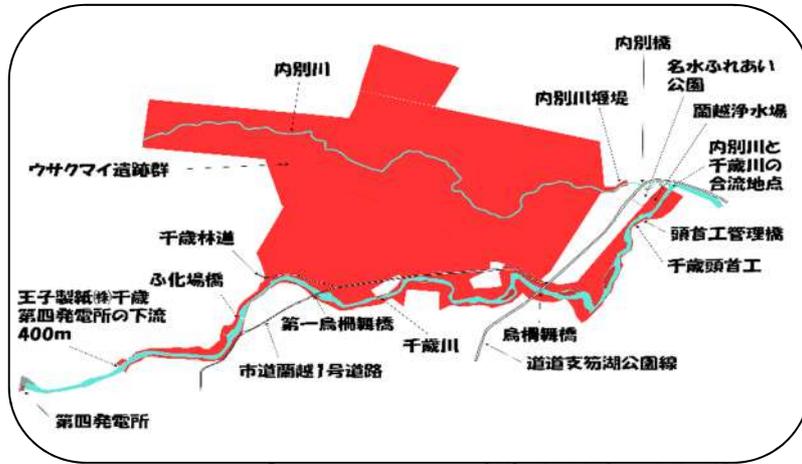
さらに、千歳市自然環境保全条例第10条に基づき、貴重な生態系を維持するうえで重要な役割を果たす自然地域や、生物の多様性に富んでいる地域を保全するため、「自然環境保全地区」を指定しています。



千歳市自然環境保全地区指定状況図

第1種自然環境保全地区（厳格に保護・保存する地区）

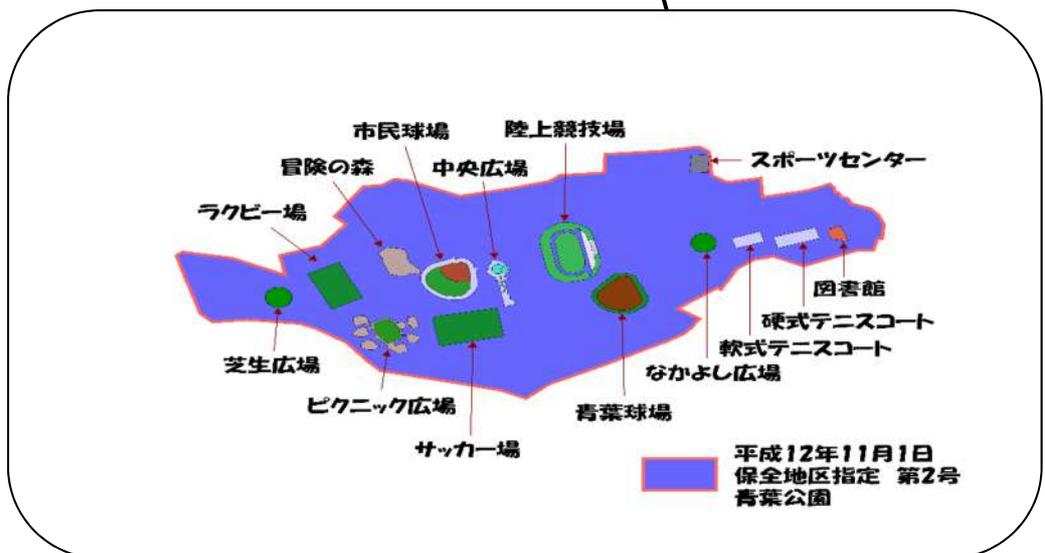
（千歳川河川区域・千歳川河川区域ほか・ウサクマイ遺跡群及び内別川流域）



第2種自然環境保全地区

（市民が適正に利用・活用しながら保全する地区）

（青葉公園）



### 【千歳市内で確認されている希少な野生動植物】

千歳市内では、国や北海道が、絶滅のおそれのある種をまとめた「レッドデータブック」等の基準により、希少種とされている野生動植物が下表のとおり確認されています。

区 分	種 名
植 物	サルメンエビネ、タヌキモ、チトセバイカモ、テイネニガクサ、マルミノウルシほか
ほ乳類	エゾヒグマ、エゾクロテンほか
鳥 類	オオタカ、オオワシ、オジロワシ、クマガラ、ハイタカ、ハヤブサ、ヤマセミほか
魚 類	ヒメマス、エゾトミヨ、エゾホトケドジョウ、スナヤツメほか
昆虫類	ギンイチモンジセセリ、ケマダラカミキリ、ゴマシジミ、ヒョウモンチョウほか
両生類	エゾサンショウウオ

備考：希少種の選定基準は次のものによる

1. 文化財保護法
2. 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律
3. 第1回自然環境保全調査報告書（緑の国勢調査）
4. 第2回自然環境保全調査報告書
5. 我が国における保護上重要な植物種の現状
6. 日本の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータブック環境省編）
7. 北海道の希少野生生物（北海道レッドデータブック）

### 【千歳市内で確認されている特定外来生物※】

国では、平成17年度（2005年度）に、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」を施行し、特定外来生物による生態系への被害を防止し、生物の多様性の確保、人の生命及び身体の保護、農林水産業の健全な発展に寄与することを通じて、国民生活の安定向上に資することを目的に、指定を受けた特定外来生物を全ての地域から排除又は防除する取組を推進しています。

千歳市内では、特定外来生物の指定を受けた動植物として、アライグマ、ミンク、ウチダザリガニ、セイヨウオオマルハナバチ、オオハンゴンソウなどが確認されています。

※特定外来生物：外来生物（海外起源の外来種）であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から指定される生物のこと。特定外来生物は、生きているものに限られ、個体だけではなく、卵、種子、器官なども含まれる。

【自然とのふれあい】

千歳市には、様々な自然とふれあえる場があります。支笏湖周辺や青葉公園では登山や探鳥会などを定期的で開催し、夏はママチ川生き物観察と川遊び、冬には七条大滝の自然観察会などの四季に合わせた行事を実施しています。

また、平成17年度（2005年度）には、市内の直売所や体験型農園などを経営する農業者が中心となって、千歳市グリーン・ツーリズム連絡協議会を組織し、グリーン・ツーリズム\*の普及啓発と食農教育の浸透を図るため、各種イベントを行っているほか、観光客誘致促進のための宣伝活動や研修会などを実施しています。



春のバードウォッチングの様子



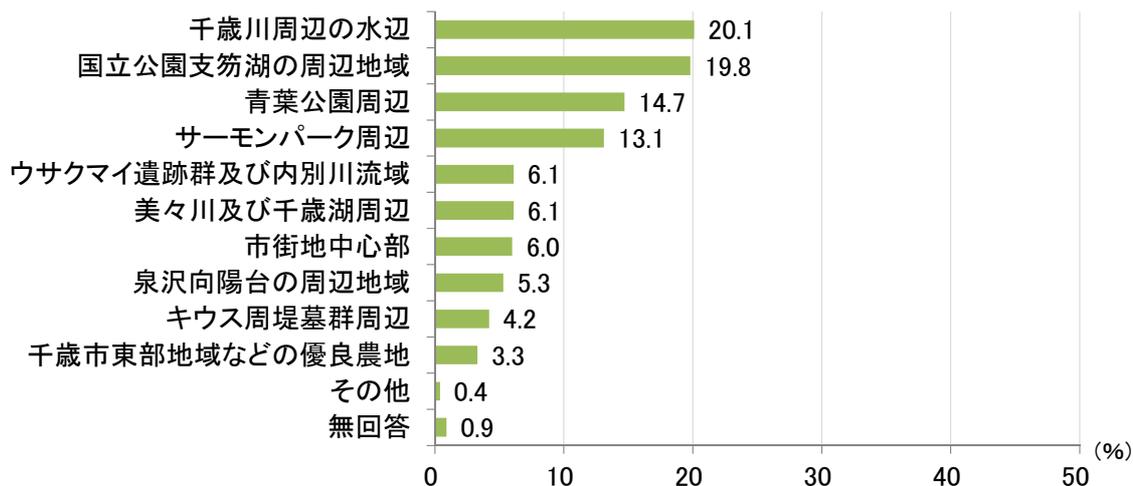
出典：千歳市グリーン・ツーリズム連絡協議会

【自然共生に関する市民意識】（アンケート調査結果）

○自然環境を特に守っていききたいと思う地域

自然環境を特に守っていききたい地域は、回答割合が高いものから「千歳川周辺の水辺」20.1%、「国立公園支笏湖の周辺地域」19.8%、「青葉公園周辺」14.7%、「サーモンパーク周辺」13.1%の順となっており、これら4つの地域で7割近くを占めています。また、「その他」として、空港周辺等の回答がありました。

自然環境を特に守っていききたいと思う地域



\*グリーン・ツーリズム：農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動のことで、滞在の期間は、日帰りの場合から、長期的又は定期的・反復的な（宿泊・滞在を伴う）場合まで様々である。農林水産省では、都市と農山漁村を行き交う新たなライフスタイルを広め、都市と農山漁村それぞれに住む人々がお互いの地域の魅力を分かち合い、「人、物、情報」の行き来を活発にする、農泊を中心とした都市と農山漁村の共生・対流の取組を推進している。

## ②現状の主な取組

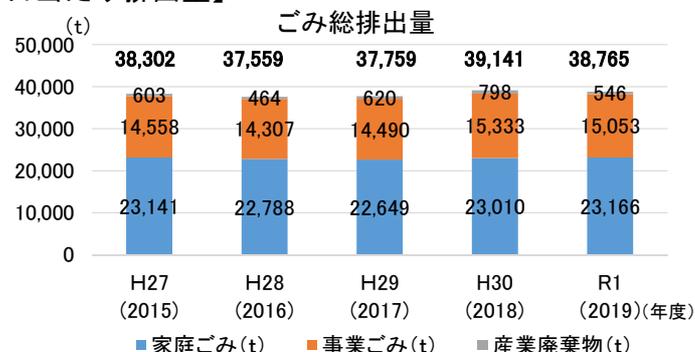
- ・ 自然環境の保全と利用に関する施策を総合的、計画的に行うとともに、市内にどのような動物・昆虫・植物などが生息、生育しているかを把握する際の基礎資料とするため、平成4年度（1992年度）から平成8年度（1996年度）に千歳市自然環境基礎調査を実施しました。その後19年が経過し、生息する動植物も変化してきたことから、平成27年度（2015年度）から追跡調査を行っています。
- ・ 自然環境監視員などによる自然環境の保全や保全地区の監視を継続して実施しています。令和元年度（2019年度）は、自然環境保全地区、千歳湖、市内湧水池、支笏湖、オコタンペ湖、樽前山、美笛などで、計68地点、監視日数95日間実施しました。
- ・ 北海道が委嘱している鳥獣保護員の協力のもと、市民の通報や持ち込まれた傷病野生動物の保護・収容を行い、治療等の必要に応じた処置を講じています。

## (4) 資源循環

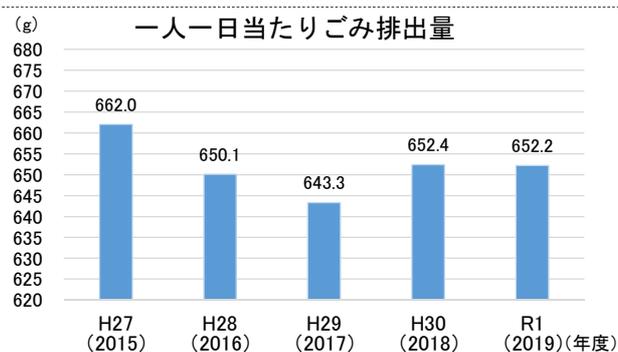
### ①千歳市の資源循環に関する現状

#### 【千歳市内のごみ総排出量及び一人一日当たり排出量】

千歳市内のごみの総排出量は、合計 37,000～39,000 トン台でここ数年推移しており、令和元年度(2019年度)の実績内訳は、家庭ごみが59.8%、事業ごみが38.8%、産業廃棄物が1.4%となっています。また、一人一日当たり排出量は、650グラム前後で推移しています。



※家庭ごみについては、千歳市環境センターに搬入されたものに、集団資源回収物等の実績を加えたもの  
 ※事業ごみ、産業廃棄物については、千歳市環境センターに搬入されたもののみ  
 ※平成27年度から民間事業者による資源回収物を追加  
 ※端数処理の都合上、合計が一致しない場合があります。



#### 【ごみの収集・処理体制】

千歳市では、家庭から発生するごみを8種類に分けています。

「燃やせるごみ」、「燃やせないごみ」、「プラスチック製容器包装」、「有害ごみ」、「4種資源物」については、ごみステーション等による拠点収集とし、「大型ごみ」は、戸別収集しています。

「使用済み小型家電」については、コミュニティセンター等の拠点から回収し、「集団資源回収物」は、町内会ごとに定める方法で回収し、リサイクルされています。

また、事業所などから出る事業系ごみについては、事業者が自らの責任において一般廃棄物収集運搬業許可業者に依頼するなどの方法により、適正に処理することとなっています。

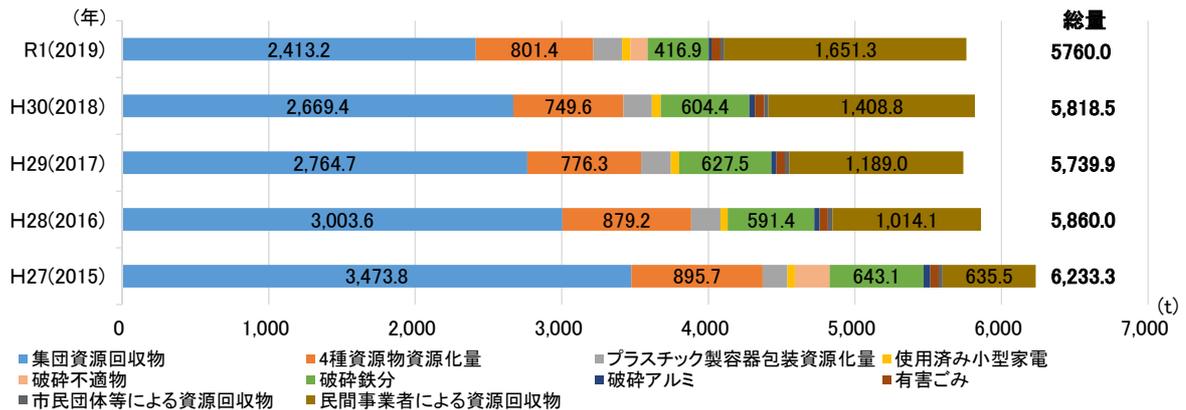
環境センターに搬入された燃やせるごみは、焼却処理場で焼却し、燃やせないごみ・大型ごみなどは、破碎処理場で破碎処理を行ったうえで、アルミ類や鉄類等を選別・回収し、リサイクルしています。

また、4種資源物は、リサイクルセンターで、プラスチック製容器包装は、破碎処理場でそれぞれ選別・圧縮梱包し、リサイクルしています。

【千歳市内のリサイクル状況】

4種資源物（ペットボトル・発泡スチロール、びん、缶など）、プラスチック製容器包装、使用済み小型家電、破碎不適物、破碎鉄、破碎アルミ、有害ごみ等の回収、集団資源回収（古紙類、びん類、金属類などの回収）、市民団体等や民間事業者の資源回収（古衣料、割りばし、ペットボトルキャップ、家庭用廃食用油等）による、市内のリサイクル量は、年間 6,000 トン前後で、一般廃棄物総排出量に対するリサイクル率は、15～16%台で推移しています。

リサイクル量の推移

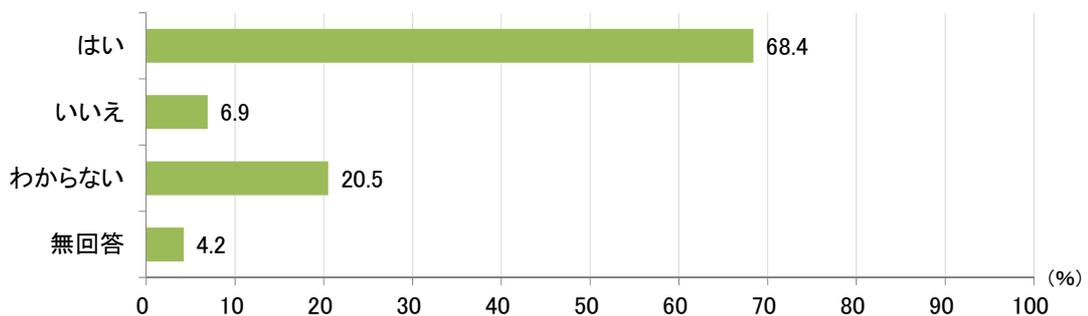


【資源循環に関する市民意識】（アンケート調査結果）

○ごみの発生抑制・物品の再利用・再資源化（3Rの推進）の取組状況

ごみを出さない（Reduce リデュース）、くり返して使う（Reuse リユース）、再資源化（Recycle リサイクル）の3Rの取組に対して、68.4%が「はい」と回答しています。

3Rの取組



## ②現状の主な取組

- ・ 循環型社会の形成に向けて様々な事業者による取組が行われています。
- ・ 町内会等の団体及び「公益財団法人ちとせ環境と緑の財団」による集団資源回収や各コミュニティセンターでの使用済み小型家電の回収などを行っているほか、3R（スリーアール：Reduce 発生抑制、Reuse 再使用、Recycle 再生利用）に積極的に取り組む小売店を「千歳市エコ商店」として認証する取組などを通じて、市全体の循環型社会への意識を高めています。
- ・ 企業立地や人口増加が続き、まちの発展が予測される中で、ごみの適正な分別などに継続して取り組んでいます。



町内会等による集団資源回収の様子

## (5) 環境教育・パートナーシップ

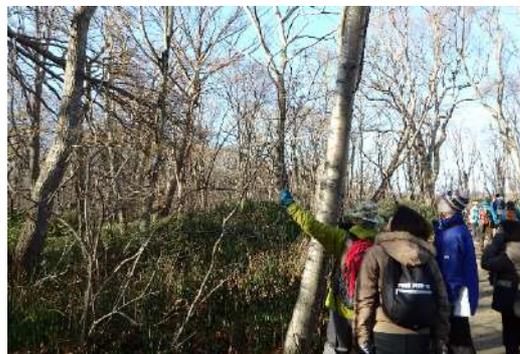
### ①千歳市の環境教育・パートナーシップに関する現状

#### 【環境教育や啓発事業】

千歳市では、環境保全意識の向上のため、様々な学習機会の提供や啓発事業により市民参加の場を設けています。

#### <自然環境教室の実施>

青葉公園において自然に対する知識やマナーを学ぶことを目的とした行事を実施しています。



自然環境教室 令和元年度 秋の野鳥観察会

#### 令和元年度（2019年度）開催の自然環境教室

行事名	実施日	会場	備考
春の野鳥観察会	令和元年5月18日	青葉公園	19種類の野鳥を確認
秋の野鳥観察会	令和元年11月10日	青葉公園	13種類の野鳥を確認

#### <自然に親しむ行事の実施>

千歳市、環境省及び自然環境団体が連携し、自然公園の適正利用の普及や自然を大切にすることを育むことを目的に、行事を実施しています。

#### 令和元年度（2019年度）開催の自然観察会

行事名	実施日	会場	備考
支笏洞爺国立公園 指定70周年 紋別岳自然観察会	令和元年10月12日	紋別岳	紋別岳登山
冬の七条大滝自然 観察会	令和2年2月2日	七条大滝	七条大滝を見学

### <千歳学出前講座※>

市内小学校・中学校において、環境や自然に関する「千歳学出前講座」を実施しており、地球温暖化問題やごみ、公害等の講義を行っています。

### <環境センターの施設見学>

循環型社会の形成に向けた教育の推進を目的に、学校を対象とした環境センターの施設見学のほか、各種団体を対象とした施設見学を積極的に受け入れており、ごみ処理に関する理解を深めてもらうことに努めています。

### 【環境保全に関する活動団体等との連携】

公益社団法人ガールスカウト日本連盟北海道第31団等の環境保全に関する活動を展開する団体と連携し、保全活動に取り組んでおり、活動の場を提供するなどの支援を行っています。

#### 千歳市内の環境保全に関する活動団体

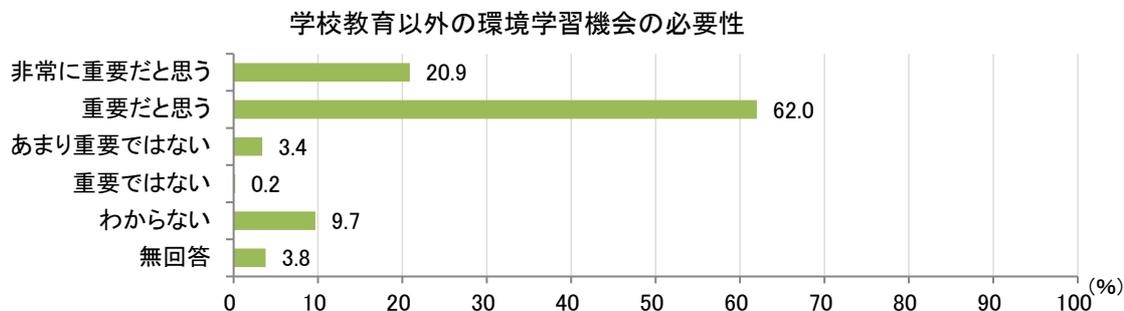
- ・公益社団法人ガールスカウト日本連盟北海道第31団
- ・しこつ湖自然体験クラブ トウレップ
- ・社団法人千歳青年会議所
- ・千歳セントラルロータリークラブ
- ・千歳市民の飲み水を守る会
- ・NPO 法人 千歳ひと・魅力まちづくりネットワーク
- ・千歳の自然保護協会
- ・ふる里の自然を考える会
- ・千歳どんぐりを育てる会
- ・特定非営利活動法人アグリコミュニティ千歳
- ・公益財団法人ちとせ環境と緑の財団

※出典：千歳市ホームページに掲載している団体

### 【環境教育・パートナーシップに関する市民意識】（アンケート調査）

#### ○学校教育以外の環境学習に対する認識

学校以外の環境学習の必要性について、「非常に重要だと思う」が20.9%（前回調査19.4%）、「重要だと思う」が62.0%（前回調査61.4%）となっており、これらを合わせた回答が82.9%（前回調査80.8%）となっており、前回調査と同様に高い割合となっています。



※千歳学出前講座：市民と市民、市民と学校や企業、市民と市職員が顔を合わせて、互いに学び合うものであり、情報共有や人のネットワークづくりを図り、市民と行政が協働で生涯学習のまちづくりを進めることを目的として実施している講座のこと。

## ②現状の主な取組

- ・ 市民の環境に関する意識を高めるため「環境月間」や「千歳学出前講座」などの学習機会の提供や環境イベントの開催に取り組んでいます。
- ・ 市内の小学4年生を対象として「こども環境白書」を配布し、環境について理解してもらうように努めています。
- ・ 「子ども環境教室」の開催や「環境活動スクール制度（通称：エコ活）」<sup>\*</sup>を継続し、気軽に子どもたちが環境について学ぶことのできる機会を提供しています。
- ・ 市民や事業者の環境配慮意識の醸成のため、市民団体等と連携して環境に対する取組や意識啓発を行っています。



※出典：子ども環境教室（地球温暖化ふせぎ隊）

<sup>\*</sup>環境活動スクール制度：詳細は 89 ページのコラムを参照。